

要 旨

社会科学習においては、社会的な見方や考え方を成長させることが重視されている。そのために、切実性のある社会的な問題を取り上げ、その背景や原因を基にその望ましい解決策を探究していく学習過程を仕組むことは意義のあることだと考える。そこで、本研究では、望ましい解決策を探究する過程において、自他の考えを交流させたり、話し合いを通して、自分の考えを再構成させたりしてきた。これらのことにより、社会的な事象には多面的な見方や考え方があることに気づき、事象を多面的に見たり考えたりして考えを表現することができるようになった。

〈キーワード〉 ①多面的な見方や考え方 ②共通の観点 ③ひろげるシート

1 研究の目標

社会的な事象を多面的に捉え、公正に判断できる児童を育成するために、4年生社会科における地域学習において、自他の考えを交流させる場を取り入れた社会科学習の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

今日の科学技術の進歩と経済の発展は、豊かな社会を創り出すとともに、国際化・少子高齢化・高度情報化などにより価値観が多様化し、様々な面で大きな変化をもたらしている。これからの時代を生き抜く児童には、このような社会の変化にどのように対応していくか、社会的な問題をいかに解決していくかが求められている。

学習指導要領においては、「生きる力」を育むという教育の基本理念を踏まえるとともに、特に、基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成が重視された内容になっている。社会科学習においても、社会的な見方や考え方を成長させることが重視されており、社会的な事象を様々な立場や価値から見たり考えたりすること、そして、それを基に決して一人よがりの判断ではなく事象を総合的に捉えて判断することができる児童の育成が求められている。

平成23年度佐賀県小・中学校学習状況調査の報告を見ると、児童との結び付きを感じにくい単元ほど正答率が低いという傾向があるとともに、社会的な事象の相互の関連や意味・意義を説明したり、解釈したりすることに課題があることが分かった。このことから、地域社会における社会的な事象の特色や相互の関連などについて考えたり話し合ったりさせるとともに、地域社会や児童にとって切実性のある社会的な問題を取り上げて、その背景や原因を基にその望ましい解決策を探究していく学習過程を仕組むことは意義のあることだと考える。

しかし、社会的な経験の少ない児童にとって、社会的な問題についての解決策を一人で考えることは簡単ではない。そのため、自分が考えた望ましいと考えられる解決策の是非について見直すために他者の考えと比べることが必要になると考える。なぜなら、そのような場を設定することで、他者の見方や考え方を通して社会的な事象をいろいろな面から見たり考えたりすることができたり、自分の考えを見つめ直したりすることができるからである。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、切実性のある社会的な問題の望ましい解決策について考えさせる学習の方途を探りたいと考えた。このことが、社会的な事象に対してはいろいろな見方や考え方があることに気づくこと、そして事象をいろいろな面から見たり考えたりすることができる児童を育成することにつながると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

社会的な問題の望ましい解決策について考える過程において、自他の考えを交流させたり、共通の観点を示して話し合いをさせたりすれば、自分の考えを再構成し、広い視野から表現することができるようになるだろう。

4 研究方法

- (1) 社会的な思考力・判断力・表現力を育む指導に関する理論研究
- (2) ワークシートの記述を基にした児童の実態調査
- (3) 検証授業を行い、手立ての検証と考察

5 研究内容

- (1) 先行研究や文献を通して社会的な思考力・判断力・表現力の育成について理論研究を行う。
- (2) ワークシートの記述から社会的な思考力・判断力・表現力の変容を分析する。
- (3) 所属校の4年生における単元「安全なくらしを守る仕事」（3時間）と「わたしたちの住んでいる県」（3時間）を用いた授業実践を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

多面的に捉えることについて、安野は「対話の仕組み方を工夫すれば、子どもが学習対象を多面的にとらえる、あるいは一見違うと思われることが実は同じ意味を持っているという発見をするなど深まりのある学習が期待できる」¹⁾、小原は「子ども自らが最も適していると思う社会的見方・考え方を友だちのそれと比較、再検証し、より整合的なものにしていくことができるように他者との相互作用の場を構成していくことが重要となる」²⁾と述べている。また、多面的に捉えることの大切さについて、北は「社会的事象を複数の観点から多面的に観察したり、分析したりすることによって、事象を総合的に見たり、より広い視野から捉えたりすることができるようになる」³⁾と述べている。

以上のことから、社会的な事象を多面的に捉えさせるためには、自他の考えを比べたり自分の考えを見直したりする考えの交流の場を設定することが大切であると考えた。さらに、社会的な事象を多面的に捉えることが、事象を公正に判断することにつながると考えた。

- (2) 研究の構想

ア 社会的な事象を多面的に捉え、公正に判断できる児童を育成する学習過程

単元の中に2つの学習問題を設定する。学習問題1では、学習問題2で使わせたい知識や技能を獲得させることをねらう。そして、学習問題2で社会的な問題の望ましい解決策について考えさせる。このような学習過程は佐賀県小学校社会科研究会においても進められており、実践例も紹介されている。しかし、学習問題1で獲得した知識や技能が学習問題2に生かされていない場合、児童の見方や考え方が一人よがりであり広い視野から捉えられなかったりするなどの課題がある。

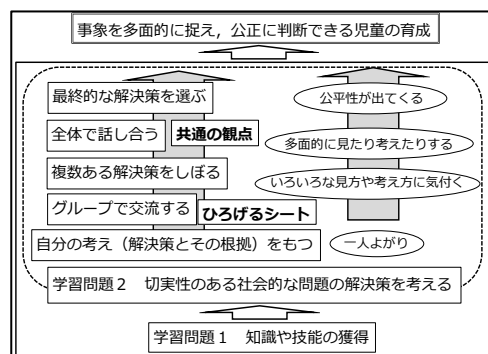


図1 学習過程

そこで、本研究では、学習問題2で地域の切実性のある社会的な問題を取り上げ、その解決策を考えさせる。そこでは、まず、社会的な問題についての自他の解決策やその根拠を交流させ、

自分とは異なる見方や考え方があることに気付かせる。そして、複数ある解決策を絞ったり、絞った解決策から望ましい解決策を選ぶための話し合いをさせたりすることで多面的な見方や考え方を育てる。このような学習を繰り返すことで、社会的事象を多面的に捉え、公正に判断できる児童を育成することができると考えた(前頁図1)。

イ 検証の視点と具体的な手立て

仮説を検証するために、次の2つの視点を定めて、研究を進めた。

(ア) 【検証の視点Ⅰ】自他の考えを交流することによる見方や考え方の広がり

社会的事象を多面的に捉えさせ、互いの考えを広げるためには、まず多面的な見方や考え方があることに気付かせることが必要になる。そこで、自他の解決策やその根拠を比べ、それらの共通点や相違点を見付けることを通して、自分とは異なる見方や考え方に気づき、より広い視野から見たり考えたりしようとするを見方や考え方の広がりと考えた。

見方や考え方を広げるために、自他の考えの交流の場において、「ひろげるシート」を活用させる。「ひろげるシート」には、考えの比較がしやすいように、自分の考えとグループの友達の考えとを書かせる。そして、それまでの学習やめあてを基に友達の考えを3段階(◎○△)で評価させ、その根拠となる部分に線を引かせたり、その理由を書かせたりする。そのことが、児童の見方や考え方を広げることにつながると思える。

そこで、自他の解決策やその根拠を交流させる際の「ひろげるシート」の記述と交流後の感想から、児童の見方や考え方が広がったかを検証する。

(イ) 【検証の視点Ⅱ】共通の観点を示した話し合いによる見方や考え方の深まり

事象を公正に判断させるためには、事象を総合的に見たり、より広い視野から捉えさせたりすることが必要になる。そこで、より望ましい解決策を選ぶ話し合いを通して、自他の考えを比べたり、つなげたりすることで記述や発言の内容を詳しくしながら自分の考えを再構成することを見方や考え方の深まりと考えた。

見方や考え方を深めるために、まず、「ひろげるシート」によって広がった望ましいと思われる解決策の絞り込みを行い、複数ある解決策を絞り込む段階で出されたキーワードから共通の観点を児童とともに選び出していく。そして、最終的に絞り込まれた解決策から望ましいと思うものを選ばせる。その後、共通の観点から絞った解決策を考え直し、より望ましい解決策を選ぶ話し合いをさせる。そのことが、話し合い前とは異なる面から見たり考えたりすることになり、事象を総合的に見たり、より広い視野から捉えたりすることにつながり、さらに、事象を公正に判断することにもつながっていくと思える。

そこで、共通の観点を示した話し合いの前と後の解決策とその根拠に関わる記述から、児童の見方や考え方が深まったかを検証する。

(3) 授業の実際

ア 検証授業①(平成24年11月実施)

第4学年 単元名「安全なくらしを守る仕事」～じこやじけんから人びとをどう守るの～

(ア) 単元の概略

まず、安全なくらしを守るために活動している機関の働きやそこに従事している人々の工夫や努力、事故を防ぐための施設について調べる学習問題1を設定し、地域の交通安全に関わる問題点に気付かせた。次に、その問題点の望ましい解決策について考える学習問題2を設定し、自他の解決策を交流させたり、解決策を選ぶための話し合いをさせたりした(次頁表1)。

表1 「安全なくらしを守る仕事」単元計画

時	学習過程	主な学習活動
1～7	学習問題1	<p>事故のない安全なまちにするために誰がどんなことをしているのでしょうか。</p> <p>○大浦地区の交通事情について知る。</p> <p>○安全を守るために活動する機関や人の働きについて調べる。</p> <p>○交通安全施設の種類や目的について調べる。</p>
8～11	学習問題2	<p>事故の多い「亀ノ浦交差点」の事故ゼロ作戦を考えよう。</p> <p>○自分なりの解決策(作戦)を考える。</p> <p>○自他の解決策(作戦)やその根拠を「ひろげるシート」を使って交流する。</p> <p>○複数ある解決策(作戦)を絞り込む。</p> <p>○共通の観点を基に全体で話し合い、最終的な解決策(作戦)を選ぶ。</p>

(イ) 自他の考えを交流することによる見方や考え方の広がり(視点Ⅰ)

学習問題1で獲得した、「亀ノ浦交差点は見通しが悪い」「カーブミラーは見通しの悪いところに立てられる」などの知識を生かして考えた解決策やその根拠をグループで交流させた。交流では、「ひろげるシート」を活用させることで、自他の考えを比較させ、解決策やその根拠の共通点や相違点に気付かせるようにした。そして、「ひろげるシート」を基に、交流後の感想を書かせた。グループでの交流の後、全体での交流も行い、グループでは出てこなかった解決策やその根拠にも目を向けさせるようにした。学級全体では、「歩道橋を架ける」「道路を拓げる」「看板を立てる」「カーブミラーを設置する」など11の解決策が出された。交流後の感想には、「班の人の考えを聞いて、いろいろあるんだなと思いました」「自分の考えと友達の考えを比べてみて、私はA君と似ていることが分かりました」などの記述が見られた。

(ウ) 共通の観点を示した話し合いによる見方や考え方の深まり(視点Ⅱ)

児童の発達の段階や生活経験を考慮し、話し合いを焦点化するために、望ましい解決策を選ぶ話し合いの前に、2つの解決策に絞るための話し合いを行った。その段階においては、解決策を残す、残さないにかかわらず理由を聞いて、全体に語りながら解決策を絞っていくようにした。そして、似ている解決策をまとめたり、「実現できるか」「続けられるのか」「お金はいくらかかるの」「どんな人にとってよいの」などの児童の発言から出されたキーワードを基に考えさせたりしながら、最終的に2つの解決策(「道路を拓げる」・「歩車分離式信号機にする」)に絞った。また、児童から多く出されたキーワードであり、教師自身も最終的な解決策を選ぶ際に重要となると考えていたことから「費用」を、社会科の特性上外せないものであることから「人」を共通の観点とした。

全体の話し合いの前に、まず、2つの解決策のうち望ましいと思うものを選びさせた。そして、複数の解決策を2つに絞り込む段階で導き出された共通の観点を示し、話し合いを行った。話し合いは、児童の意見を観点ごとに板書したり、一方の観点到意見が偏らないようにするために、もう一方の観点からの考えを発表させたりしながら進めるようにした。その後、最終的に望ましいと思う解決策を選びさせた。話し合いでは、共通の観点から2つの解決策を比べながら発言する姿も見られた。

(エ) 課題

「ひろげるシート」の記述や交流後の感想、共通の観点を示した話し合い前後の解決策に関わる記述を見ると、抽象的な表現が多かった。また、話し合い後は、話し合い前に触れた観点到触れずに記述している児童も見られた。話し合いにおいては、自分が選んだ解決策の長所と他方の短所を挙げて意見を述べる児童はいたが、それぞれの解決策のよさに目を向けながら比較している児童は少なかった。それぞれの解決策のよさを十分考えさせてから解決策を選びさせ、話し合いをさせることで「より望ましい解決策を選ぶ」という意識が高まり、話し合いもさらに深まると考える。

これらのことから、考えを書かせるワークシートの形式や最終的に望ましいと思う解決策を選ぶための話し合いの進め方については、さらなる工夫が必要であると感じた。

イ 検証授業②(平成 25 年 2 月実施)

第 4 学年 単元名「わたしたちの住んでいる県」～県内の特色ある地域～

(7) 単元の概略

まず、県内の特色ある地域の人々の生活について調べる学習問題 1 を設定し、県の特色やよさについて考えさせ、観光客数の停滞という自分たちの町の課題に気付かせた。次に、その課題の望ましい解決策について考える学習問題 2 を設定し、自他の解決策を交流させたり、解決策を選ぶための話し合いをさせたりした(表 2)。

表 2 「わたしたちの住んでいる県」単元計画

時	学習過程	主な学習活動
1～6	学習問題 1	<p>県内の特色ある地域では、どのような工夫や努力をしているのでしょうか。</p> <p>○県内の特色ある地域について調べ、交流する。</p> <p>○太良町の特色について考える。</p>
7～10	学習問題 2	<p>太良町のよさを生かした集客アッププランを考えよう。</p> <p>○自分なりの解決策(プラン)を考える。</p> <p>○自他の解決策(プラン)やその根拠を「ひろげるシート」を使って交流する。</p> <p>○複数の解決策(プラン)を絞り込む。</p> <p>○共通の観点を基に全体で話し合い、最終的な解決策(プラン)を選ぶ。</p>

(イ) 自他の考えを交流することによる見方や考え方の広がり(視点 I)

検証授業①での課題を受け、自分の考えを分かりやすく説明させるために記述例を示し、「ひろげるシート」に解決策の名前、内容、よさを書かせるようにした。また、友達の考えを◎○△で評価させ、その理由を書かせるようにした(図 2)。そして、友達の考えのよく分からないところは質問をして理解するように声掛けをした。このようにして、解決策だけではなく、その根拠の共通点や相違点にも気付かせるようにした。また、友達の考えのよさや問題点についても気付くことができるようにし、解決策の絞り込みの際の手助けになるようにした。交流後は、検証授業①と同様に「ひろげるシート」を基に感想を書かせた。感想には、「いろいろなプランがありました。○○さんの考えの～なところがいいと思います」など解決策の根拠に目を向けた記述が見られるようになった。

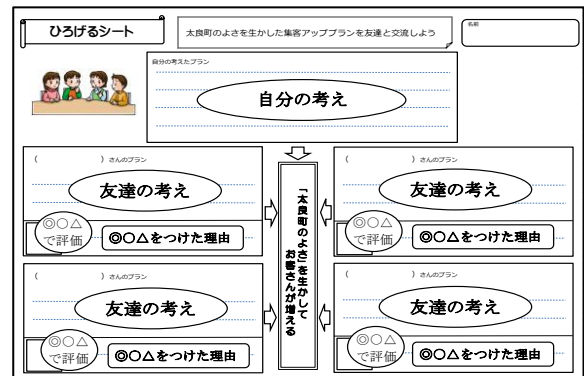


図 2 ひろげるシート

(ロ) 共通の観点を示した話し合いによる見方や考え方の深まり(視点 II)

検証授業①と同様に解決策を絞り込むための話し合いを行った。「ひろげるシート」の記述には、それぞれの解決策のよさに着目した評価や記述が多かったが、ここでは、評価が△で、その理由の中で挙げられた、「本当に必要か」「集客がアップするか」「何を PR するのか」などのキーワードを取り上げ、解決策を絞っていった。絞っていく段階で 31 の解決策をグループ分けし、最終的に 2 つ(「山を中心にしたプラン」、「城(竹崎城)を中心にしたプラン」)に絞り込んだ。また、検証授業①と同様に「人」、本単元が特色ある地域の学習であることや、より望ましい解決策を選ぶには外せないという児童の考えから、「太良らしさ」を共通の観点とした。

検証授業①での課題を受け、全体の話合いを始める前にそれぞれの解決策のよさを十分確認した後で、2 つのうち望ましいと思われる解決策を選ばせた。そして、複数の解決策から 2 つの解決策に絞り込む段階で導き出された共通の観点を示し、話し合いを行った。話し合いは、それぞれの解決策

のよさを発表させ、観点ごとに整理しながら進め、「より望ましいのはどちらか」を考えさせるようにした。話し合いでは、友達の意見につなげたり、もう1つの解決策についての意見と比べながら意見を述べたりする姿が見られ、話し合い前に触れていた観点も話し合い後に記述しようとしていた。

(4) 検証結果と考察

ア 【視点I】 自他の考えを交流することによる見方や考え方の広がり

まず、検証授業②における自他の考えを交流させる際の抽出児の「ひろげるシート」の記述と交流後の感想(表3)を基に、見方や考え方が広がったかを検証する。

表3 抽出児のプロフィールと検証授業②における「ひろげるシート」と交流後の記述

	F児	G児
プロフィール	学習問題に対して、解決策を導くのが速い。しかし、考えたことを記述するときや発言するときや抽象的になりがちで考えがなかなか伝わらない。	学習問題に対して取組が速く、内容の理解も早い。自分の考えをしっかりとつとめることができるが、友達の考えに左右されるときがある。
ひろげるシート		
交流後の感想	Aさんのプランは、有明海をきれいにするまではいいけど、そこから人が増える工夫がなかったので人が増えることを考えたらいいと思います。 <u>ぼくとにしていた考えは、T君の考えでした。でも、ホテルを建てるまでは同じだったけど、理由がちがいました。</u>	みんないろいろな考えを書いていて、とてもよかったです。HさんやIくんやJくんは、私とちがって、カニをプレゼント、1週間とまる、有名なものさがしなどを考えていました。Iくんの考えがとてもよくて、私も太良町に来てみたいという気持ちになりました。

F児は、検証授業①では自他の解決策の共通点や相違点についてのみ記述していた。検証授業②での記述を見ると、T児と自分の解決策は同じでも、その根拠が異なっていたことに気付いている(波線部)。また、A児に対しては解決策そのものには理解を示し、不十分な点を補うための方法を記述している。解決策だけではなく、その根拠の相違点や、自分とは異なる解決策の改善点まで考えることができるようになっている。

G児は、検証授業①では自他の解決策の根拠が異なっていたことを記述していたが、交流後にそのことが生かされていなかった。検証授業②での記述を見ると、交流前は、みかんを活用した解決策を考えていたが、交流したことでそれ以外の解決策にも目が向き、解決策に対する考えが広がっている(点線部)。また、観光客の立場からも解決策を見ることができている。

このことから、2人の抽出児は「ひろげるシート」を用いて交流し、自他の解決策やその根拠の共通点や相違点を見つけることを通して、自分とは異なる見方や考え方があることに気付き、交流前とは異なる見方や考え方をすることができるようになってきていると考えることができる。

次に、交流後の記述の傾向(次頁図3)を基に、学級全体の変容を検証する。検証授業①では解決策が同じか違うかについて記述している児童が多かった。しかし、検証授業②では、「私とAくんの解決策は違っていただけ、太良のよさを伝えるというところが似ていた」という記述のように異なる解決策でも根拠が同じということなど、解決策のみではなく、その根拠にまで目を向けて記述

している児童の割合が増えている。

これらのことから、自他の考えを交流させる際に「ひろげるシート」を活用させたことは、自他の解決策のみではなく、その根拠にまで目を向けさせることになった。そのことが、自分とは異なる見方や考え方に気付き、より広い視野から見たり考えたりすることにつながったと考えることができる。

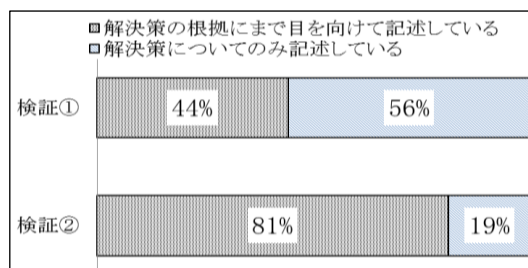


図3 交流後の記述の傾向

イ 【視点Ⅱ】 共通の観点を示した話し合いによる見方や考え方の深まり

まず、検証授業②における抽出児の話し合い前後の解決策とその根拠に関わる記述(表4)を基に、見方や考え方が深まったかを検証する。

表4 抽出児のプロフィールと話し合い前後の解決策とその根拠に関わる記述

抽出児	K児	L児
プロフィール	学習問題に対して考えることは分かって活動を進めることができる。自分の考えをまとめることに時間がかかり、記述することを苦手としている。	学習問題に対し、一生懸命に考えることができる。一人よがりになりがちで、時折、的外れな発言や記述をすることがある。
話し合い前	私は山を中心にしたプランを選びました。山を中心にするので、いちごがり体験プランもできるし、パワースポットプランもできると考えたからです。このプランにすることでお客さんが楽しめるし、喜んでもらえると思いました。だから、私は山を中心としたプランを選びました。	私は城を中心にしたプランを選びました。城を中心にするので、城の歴史を使ったプランができると考えたからです。このプランをすることで太良町に1つしかない城を輝かせられるし、初めて来たお客さんにもわくわくの体験になってお客さんも喜ぶし、太良町にとっても自まんになる。だから、私は城を中心にしたプランを選びました。
話し合い後	私は話し合いの前は山プランを選んでいただけで、話し合いをして城プランに変わりました。それは、人で見ると、みかんジュースなどは子どもからお年寄りまで好きで山がいいと思いました。でも、太良らしさでは、竹崎城は太良町にしかないの私は城プランにしました。	私は話し合いをして、やっぱり城プランがいいと思いました。なぜなら、城からは太良町のすべてが、太良町らしさが見えるし、風景や景色が好きな人はまた何回も来てくれるし、竹崎城は太良にしかないの太良町らしくていいなあと思いました。〇〇さんの歴史が好きな人も来てくれるという意見で、城には色々な歴史があるので太良らしくて、歴史好きの人もしんでくれるので、太良町らしさのある城を中心としたプランにしました。

※ □囲みは、共通の観点に関わるもの

K児の記述を見ると、話し合い前は、お客さんという「人」の観点から記述している。話し合い後は、お客さんという表現が子どもからお年寄りまでに変わり、立場まで記述することができている。さらに、話し合い前は「人」の観点のみだったが、話し合い後には「太良らしさ」についても記述している。2つのプランを共通の観点から比べて、より望ましいと考えるプランを選んだことが分かる。

L児の記述を見ると、話し合い前は、太良町に1つしかないという「太良らしさ」とお客さんという「人」との2観点から記述している。話し合い後には、「太良らしさ」についての記述が増えている。また、「人」については、友達の発言を引用したり(波線部)、友達の意見を加えたりして、お客さんを詳しく表現している。解決策についての観点からの記述が増えたり、詳しくなったりしたことにより望ましいと思うプランを選ぶ手助けになったと考えられる。

このことから、2人の抽出児は、話し合いにおいて、同じ観点からの友達の意見を参考にしたり、解決策を1つの観点からだけでなく、2つの観点から比べたりしたことで記述内容が詳しくなり、自分の考えを再構成することにつながったと考えることができる。

次に、記述の中で児童が触れている観点数の変化(図4)と話し合い後の解決策とその根拠に関わる記述の傾向(図5)を基に、学級全体の変容を検証した。図4を見ると、検証授業①②ともに、話し合い後の方が、触れている観点数が増加している。特に、検証授業②では、全員がいずれかの共通の観点に触れて考えを記述することができていた。このことから、共通の観点を基に解決策について考えることができたため、自他の考えが比べやすくなったと考えることができる。図5を見ると、検証授業①では、最終的に望ましい解決策を選ぶ際に、解決策を同じ観点から比べて考えていた児童が約半数、自他の考えをつなげて解決策を選んでいく児童はいなかった。しかし、検証授業②では、自他の考えをつなげて最終的な解決策を選んだ児童の割合が増えていた。このことから、自分だけの判断だけではなく、友達の意見を踏まえながら、最終的な選択をしたと考えることができる。

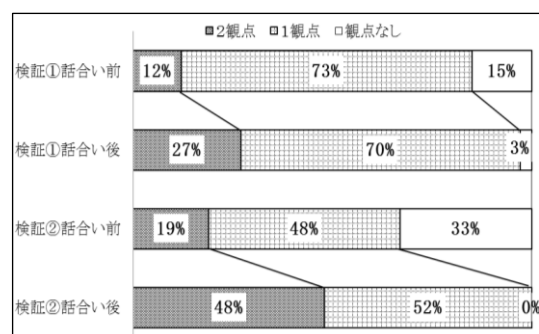


図4 観点数の変化

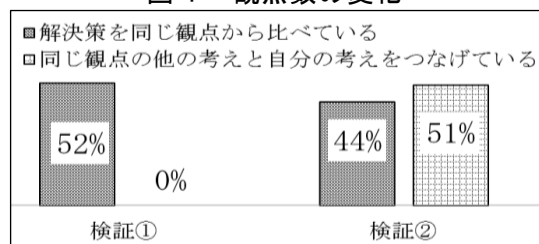


図5 話し合い後の解決策とその根拠に関わる記述の傾向

このように、共通の観点を示して話し合いをさせたことは、解決策を複数または異なる観点から比べたり、同じ観点から考えた友達の考えとつなげたりさせることになり、児童が自分の考えを再構成することにつながったと考えることができる。

このような学習を繰り返すことで、事象を総合的に見たり、より広い視野から捉えたりすることができるようになり、公正に判断することができる児童が育つことにつながると考える。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ 「ひろげるシート」を用いて自他の考えを交流させたことで、自分とは異なる見方や考え方に気付かせることができ、いろいろな見方や考え方があることやその必要性にも気付かせることができた。
- ・ 共通の観点を示して話し合いをさせたことで、複数の観点や問題に関わる様々な立場の人のことに気付くようになり、自他の考えを比べたりつなげたりしながら自分の考えを再構成して表現させることができた。

(2) 今後の課題

- ・ より公正な判断ができるようにするための学習過程や意見交流の場の工夫
- ・ 社会的な見方や考え方の広がりや深まりに関する評価の在り方

《引用文献》

- 1) 安野 功 『社会科授業が対話型になっていますか』 2005年 明治図書 p. 66
- 2) 小原 友行編著 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン』 2009年 明治図書 p. 45
- 3) 北 俊夫編著 『改訂小学校学習指導要領の展開 社会科編』 1999年 明治図書 p. 36

《参考文献》

- ・ 第18回佐賀県小学校教育研究会社会科部会研究大会研究紀要 2011年